

槇尾中学校区 今後の教育環境について

平成30年3月 No.3

2月に行いました第2回の意見交換会では、「南松尾小・中学校移転統合の経過」や「他市事例（小中一貫校の様子）」等について市より情報提供をさせていただきました。

第2回意見交換会での主な意見等

小中一貫校(小学校と中学校を一緒)とすることについて

- 子どもにとっては、小中一貫校がいいと思う。ただ、小学校と中学校の先生に児童生徒、保護者への対応について違いを感じる。連携を深めて開校に備えることなどが必要と思う。
- 小中一貫校とせず、今のままでもいいと思う。
- 今のままとすることで、将来的に、南松尾はつが野学園や南池田校区等への移転統合となるのは心配。
- 小中一貫校を建設したとしても、今後、児童生徒数が増える見込みはないので、2クラスが将来的にも確保されるか、不安がある。
- 南横山小は、ずっと1クラスなので、複数学級にする必要性を感じない。
- 就学前の保護者の意見を十分に聞いてあげてほしい。

(市より) 今後の方向性に対しては、様々な意見を伺っています。小中一貫校は、有意義な教育環境のひとつとは考えていますが、今後も情報発信や意見交換を行いながら、方向性の整理に努めることにします。

特認制度について

- 今の特認校は、南横山小の場所にあつてこそ成立する。別の場所で小中一貫校の特認校とするなら、違う形での特認校を考える必要がある。

(市より) 別の場所で、小中一貫校を建設する場合、今と同じ環境を確保することは困難です。自然学習をはじめとして、これまでの良さの継承や良い教育環境に向けて、どのような取組みを行うことが考えられるのか、整理することは重要と考えています。

跡地利用について

○学校があるので、地域が一体となり、活気も生まれている。小中一貫校とする場合でも、利活用の検討が非常に重要。

○自然環境をはじめとした、教育など、色々な場面での方策を一緒に整理すべき。

(市より) 次回の意見交換会、跡地活用についての情報発信も行う予定としています。

教育環境について

○施設一体となることで、高学年が低学年をいじめたり低学年が高学年の受験勉強の邪魔になったりしてしまうことはないのか？

(市より) 小中一貫校では、低学年は、高学年に憧れ、高学年は低学年を見守る傾向にあります。また、一般的には、いじめや不登校等は、改善する傾向にあります。

○6年生のリーダーシップがなくなるのか。

(市より) 各行事や活動に関して、6年生のリーダーシップを育てる場面を設けるなど、他市や南松尾はつが野学園でも工夫しています。

スクールバスについて

○スクールバスはどうなるのか？

○特認の中学生への補助もしてほしい。

(市より) 小中一貫校とする場合には、その建設場所などを確認しながら、スクールバス・路線バスの活用等を検討します。

【第3回意見交換会での情報提供の内容】

○前回の意見等について

○学校のあり方について(再編パターン)

○小中一貫校とすることで期待される 充実した教育環境、特色・魅力ある学校づくりの一例

○特認校として、児童・生徒を確保するための特色ある教育の実施イメージ

○跡地利用について

○想定スケジュール 4月以降の予定について

※次ページ以降が当日の資料です。

◎意見交換会の内容は和泉市教育委員会のホームページにも掲載しています。

今後の予定

◎4月以降については、地域の方々とも相談しながら決定します。

榎尾中学校区

学校適正配置に関する 意見交換会（第3回）



本日の予定

- 前回の意見等について
- 学校のあり方について（再編パターン）
- 小中一貫校とすることで期待される
充実した教育環境、特色・魅力ある学校づくりの一例
- 特認校として、児童・生徒を確保するための
特色ある教育の実施イメージ
- 跡地利用について
- 想定スケジュール 4月以降の予定について
- 質疑・意見交換

前回の意見等について

小中一貫校（小学校と中学校を一緒）とすることについて

子どもにとっては、小中一貫校がいいと思う。

ただ、小学校と中学校の先生に児童生徒、保護者への対応について違いを感じる。連携を深めて開校に備えることなどが必要と思う。

小中一貫校とせず、今のままでもいいと思う。

今のままとすることで、将来的に、南松尾はつが野学園や南池田校区等への移転統合となるのは心配。

小中一貫校（小学校と中学校を一緒）とすることについて

小中一貫校を建設したとしても、今後、児童生徒数が増える見込みはないので、2クラスが将来的にも確保されるか、不安がある。

南横山小は、ずっと、1クラスなので、複数学級にするする必要を感じない。

就学前児童の保護者の意見を十分に聞いてあげてほしい。

特認制度について

今の特認校は、南横山小の場所にあつてこそ成立する。

別の場所で小中一貫校の特認校とするなら、
違う形 での特認校を考える必要がある。

跡地利用について

学校があるので、地域が一体となり、活気も生まれている。小中一貫校とする場合でも、利活用の検討が非常に重要。

自然環境をはじめとした、教育など、色々な場面での方策を一緒に整理すべき。

教育環境について

高学年が低学年をいじめることはないのか。

- ⇒ 他市の事例を含めて、小中一貫校では、低学年は高学年に憧れ、高学年は低学年を見守る傾向にあります。
また、一般的にはいじめや不登校等は、改善する傾向にあります。

6年生のリーダーシップがなくならないか。

- ⇒ 各行事や活動に関して、6年生のリーダーシップを育てる場面を設けるなど、他市や南松尾はつが野学園でも工夫しています。

スクールバスについて

スクールバスはどうなるのか。
特認の中学生への支援もして欲しい。

⇒ 小中一貫校とする場合には、その建設場所も
確認しながら、スクールバス・路線バスの
活用等を検討します。

学校のあり方について （再編パターン）

再編パターン（検討中）

A: 当面現状のまま

………将来的に再度、あり方の検証必要。

B: 3校を統合し小中一貫校とする

特認の小中一貫校
特認なしの小中一貫校

………場所については、現時点で未定。
4～5年程度の準備期間が必要。

C: 就学区域見直し

- …他校区（南松尾はつが野学園など）への通学（校区から学校がなくなる）
- …他校区の意見も確認必要
- …時期は、即時or数年後なども調整余地あり

その他

- ・横山小と南横山小の統合のみで、槇尾中は、そのまま。
- ・南横山小はそのまま、横山小と槇尾中で小中一貫校。

などの案も検討できないことはないが、現実的ではない。

再編パターン（検討中）

A:現状のまま

榎尾

横山

南横山

メリット	デメリット
○コミュニティの単位等大きな変化ない ○少人数指導は確保できる ○南横山での自然環境教育の継続	▲少子化、小規模化の懸念 ▲多様な人間関係の構築に不安 ▲部活動の存続に不安 ▲教職員の確保に不安 ▲複式学級導入の可能性あり
検討事項等	
□校舎の長寿命化の検討 □建て替えが必要になった場合、再度議論をする可能性あり	

再編パターン（検討中）

B: 3校を統合し小中一貫校とする

榎尾

横山

南横山

メリット	デメリット
○小中一貫による系統的教育 ○現在よりも児童数は増となる →複式学級の可能性低い ○新校舎建設となれば、最新の設備となる ○南横山も留守家庭児童会入会可能	▲小学生の通学距離の変更 ▲小学校区でのコミュニティが変わる
検討事項等	
□学校建設場所の検討 □跡地利用の検討 □スクールバス・路線バス活用等の検討	□特認の実施の有無 ※4～5年後となる。

再編パターン（検討中）

B-1: 特認の小中一貫校とする

メリット	留意事項
○先ほどのメリットに加え、 複数クラスの確保により、 切磋琢磨の部分や多様な人間関係、 部活動などの面で期待が増加	▲500人規模の学校となると、 半数程度が特認の児童となる。

B-2: 特認なしの小中一貫校とする

メリット	留意事項
○メリットは、前述のとおり。	▲児童生徒数の人数的な課題は解消されない。（地域限定の学校）

再編パターン（検討中）

C: 他校区（南松尾はつが野学園）への就学区域見直し

メリット	デメリット
○小中一貫による系統的教育 ○複数クラスの確保により、 切磋琢磨の部分や多様な人間関係、 部活動などの面で期待が増加	▲榎尾中学校区から学校がなくなる ▲通学距離が長くなる
検討事項等	
□跡地利用の検討 □スクールバス・路線バス活用等の検討 □移転については、即時～数年後と弾力的な対応可能 □他校区の意見も確認必要	

**小中一貫校とすることで期待される
充実した教育環境、特色・魅力ある
学校づくりの一例**

地域交流・協働

横山、南横山地域における

これまでの構築された強固な学校支援体制について、

小中一貫校となることで、

- 校区の連携が更に深まる。
- 地域の一体化が更に深まる
- 地域組織や行事の統一によりPTAなどの負担軽減も見込まれる

学校への波及効果も大きくなり、学校の受ける恩恵が増加

- 学校の価値も高まり、地域のシンボル化が期待
- 人口の流出の抑止等にも期待。

地域交流・協働

- 地域支援室などを設置することで、
- 地域に開かれた学校とし、
授業や部活動、放課後学習等にも関わっていただける学校
- 学校が、中学校区の交流の場となる
- 卒業生やPTA、地域住民が主体となる
学校支援の組織の設置



特色ある教育課程・活動

あくまでも例示です。

独自の教科や学習活動の創設

→ 地域の教育資源（産業・施設・自然・伝統など）を生かし、学校の学習と社会とを関連付けた独自の教育活動を実施。

小中一貫した 地域学習・キャリア教育

郷土学習から地元活性案の立案・発表まで

小学生：農業、産業体験（作成から販売まで）

中学生：地元の良さを生徒がP Cを使って
インターネットで発信・販売



施設一体を活かした教育

- 中学校教員の乗り入れ授業（専門性を活かした指導）
- 多様な異学年交流
- 児童・生徒支援の充実
（小中の教員による見守り）



施設一体を活かした教育

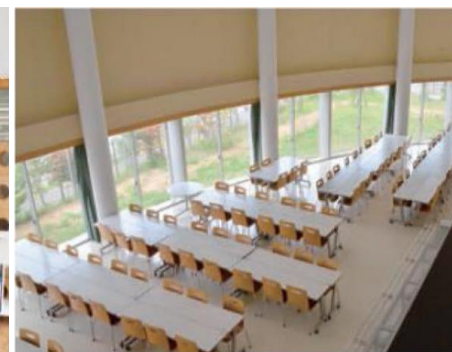
- 小学校からの一部教科担任制の実施
- 小学校における中学校教員による
英語、音楽、体育などの授業実施
- 中学校を見据えた、小学校からの定期テストの実施
- 小学生の部活動参加（5年間の部活動）

設備面の充実

あくまでも例示です。

多様な授業・用途に対応 した施設・設備

- デジタル教材の活用に対応した大型ホワイトボード
- 異学年交流や様々な行事・活動が行える多目的スペース
- 都市部で見られる高層校舎による効率的な施設配置



**特認校とし、
児童・生徒を確保するための
特色ある教育の実施イメージ**

地域施設・教育資源の活用を学校の売りにしていく！

→ 地域施設の活用

・関西トランスウェイスportsセンターや
南部リージョンセンター等を活用した教育活動

→ 自然環境を生かした学習 (南横山での授業等の機会の確保)

→ 農業・林業等の地域産業、商業関係者に協力を いただき職業・農業体験学習を実施

→ 横山・南横山双方の伝統の継承



少人数の複数学級確保

★ 1 学年 4 1 人～6 0 人の特認校を検討

→ 1 クラス 2 0 人～3 0 人の少人数クラスを確保

→ かつ、2 クラス編成により、人間関係等の対応に弾力化

★ 小学校 1 ～ 6 年生で 2 4 6 人～3 6 0 人

★ 中学校 1 ～ 3 年生で 1 2 3 人～1 8 0 人

各教科・学習指導モデル校

※少人数のため、モデル校としやすい

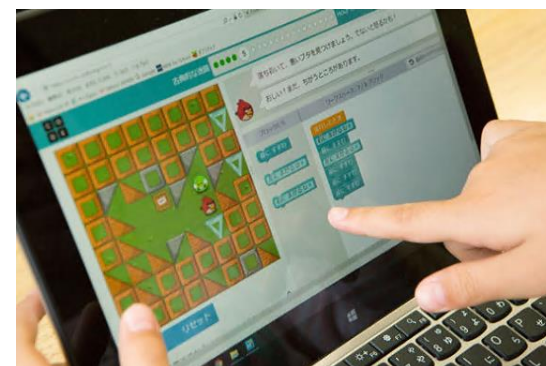
→ 英語教育推進校

- ・ 1年生から実施
- ・ 英語専科教員による授業
- ・ 専任のALTを配置



→ 情報教育モデル校

- ・ 週に1回授業実施
- ・ PCやタブレットの操作、ロボットづくり等
- ・ プログラミング教育の推進モデル



部活動

→ 他校にない特色づくり
女子サッカー、ゴルフ、バドミントン、アーチェリー、
プログラミング、木工（家具等）、園芸 等

→ 専門指導員の活用
指導経験豊富な教員以外の
専任指導員の登用



設備面の充実

あくまでも例示です。

ICT環境の整備

- 図書室とコンピューター室を一体化させたメディアルーム
- 各教室にプロジェクターやタブレットの完備
- 主体的な学びに対応した自学・メディアスペース



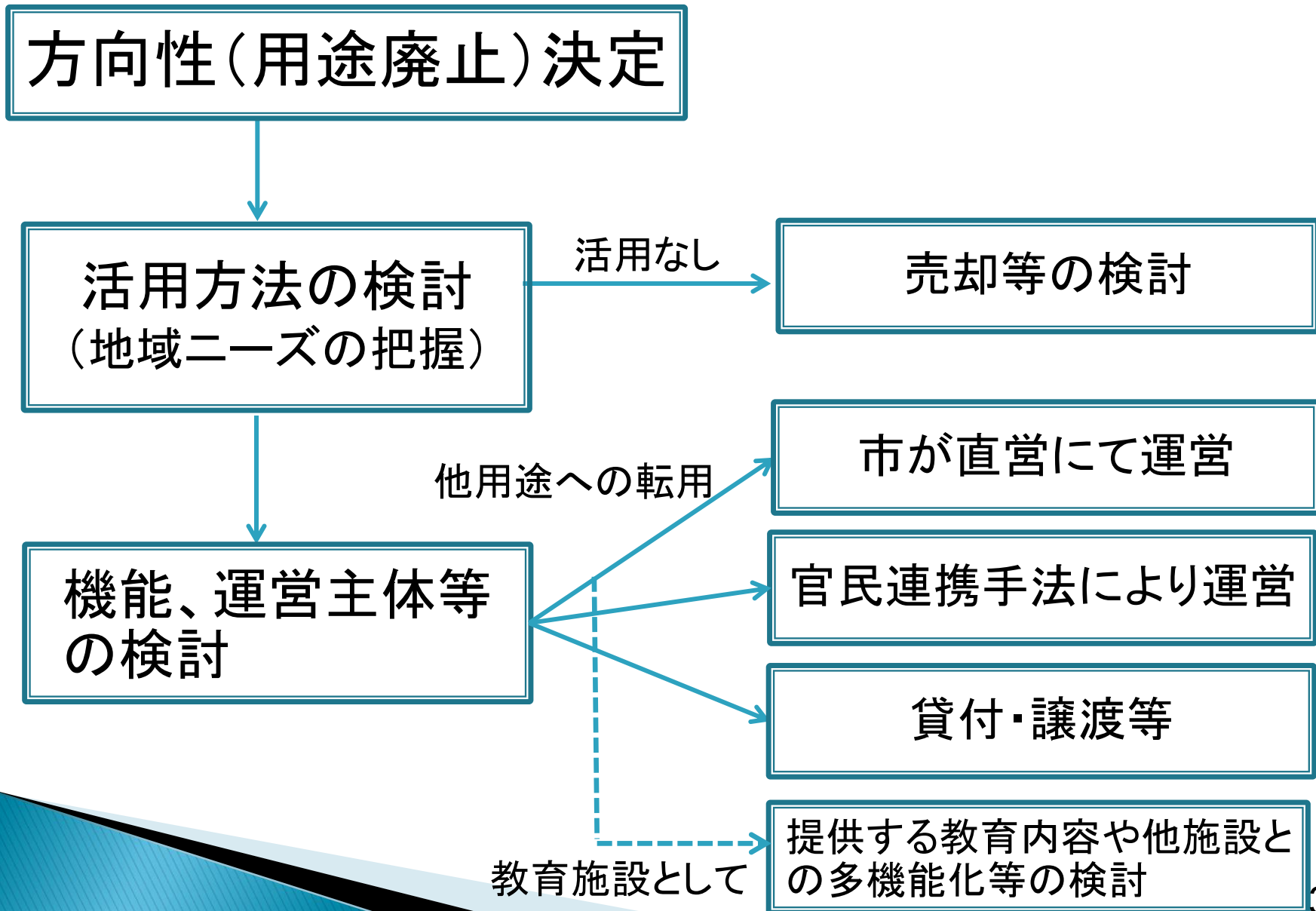
跡地利用について

公共施設の跡地利用の考え方

公共施設等総合管理計画

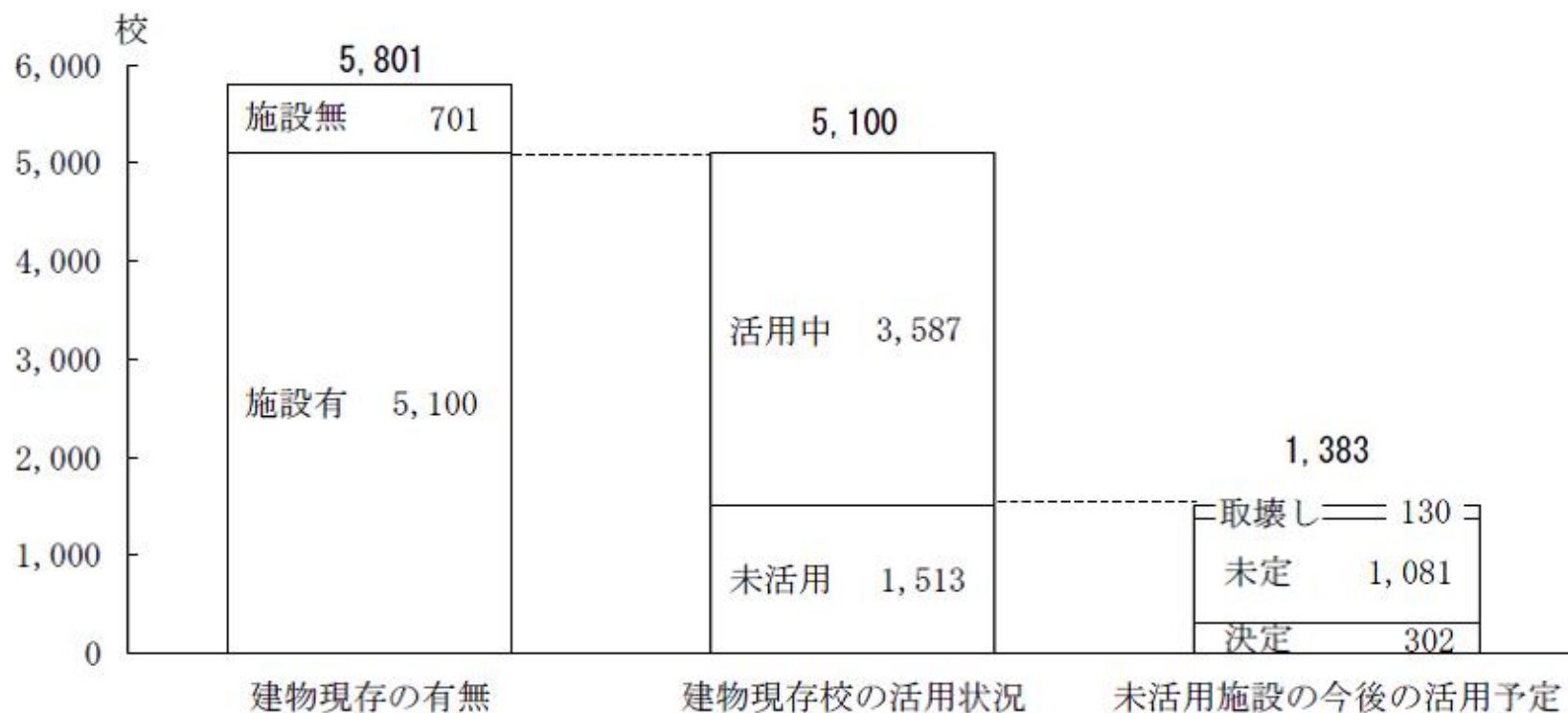
- ▶ 公共施設の移転や統廃合を検討する場合には、民間への貸付や売却も含め、一元的な取組により、全庁的、経営的な視点に立って、効果的・効率的な運用を行う。
- ▶ 跡地等の利活用については、まちづくりに資するものとなるよう地域住民のニーズを踏まえながら、地域性を考慮し検討を行う。

活用方法検討フロー(案)



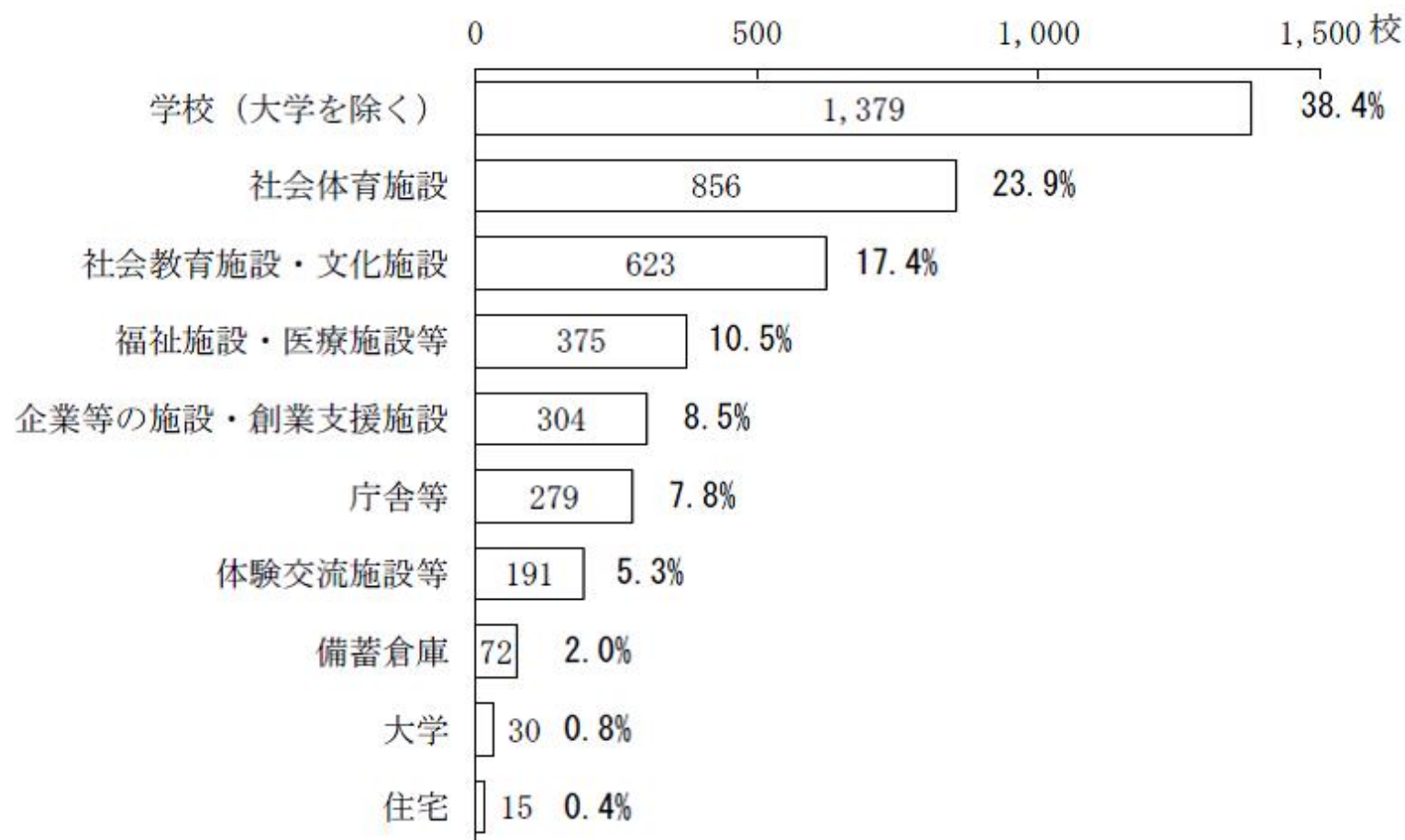
廃校施設の活用状況について

図表 1－4 廃校施設の活用状況（平成 14 年度～平成 25 年度）



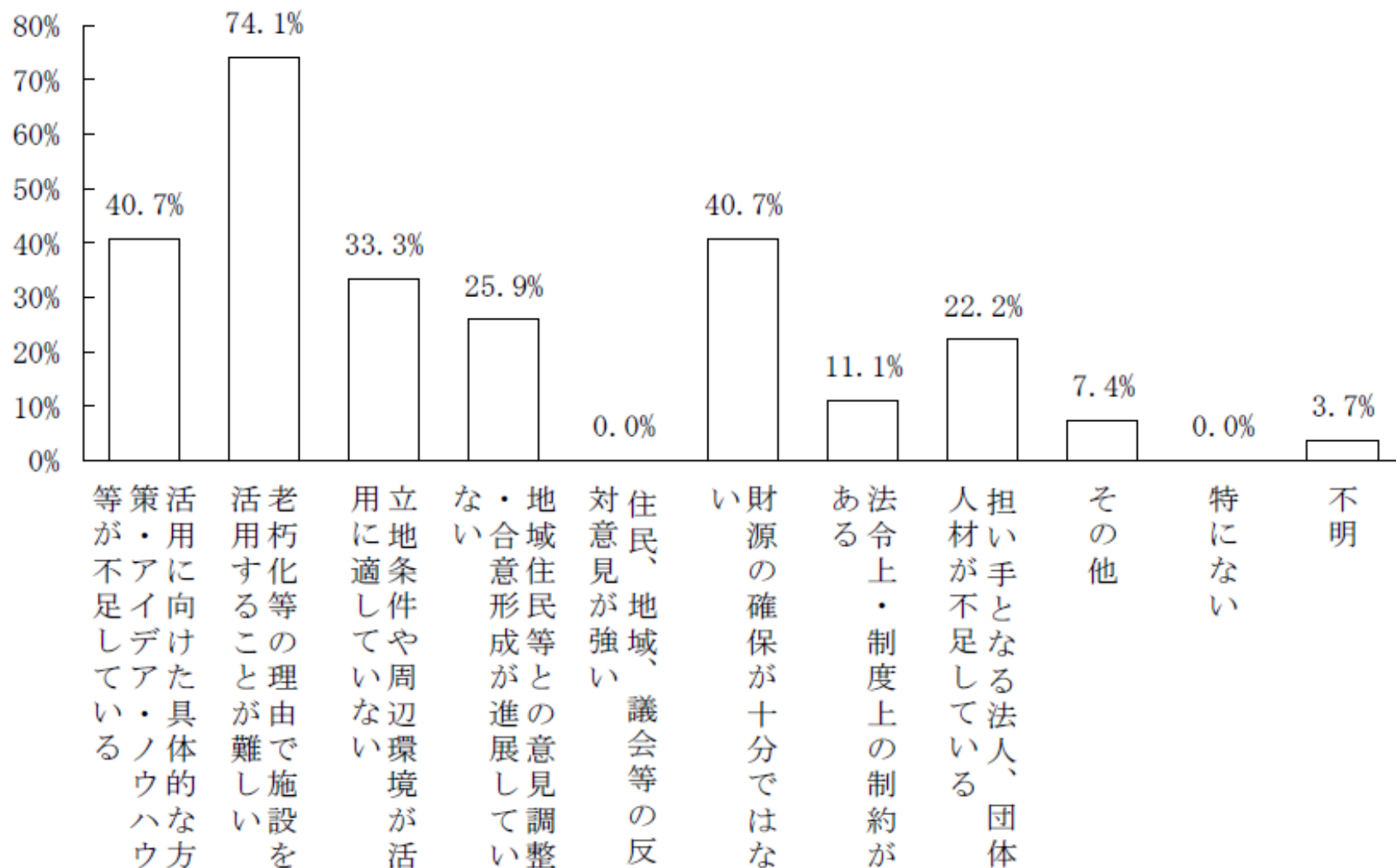
資料:文部科学省「廃校施設活用状況実態調査」（平成 26 年 5 月）

廃校施設の主な活用用途



資料:文部科学省「廃校施設活用状況実態調査」（平成 26 年 5 月）

廃校が活用されない理由（複数回答可）



想定される課題

- 住民の意見集約や合意形成について
- 財源確保について
- 法令上の問題について
- 建物(ハード)に係る問題について
- 国や都道府県等との調整について
- 民間との協働・調整について

※跡地の民間活用に当たっては、地域ニーズに対応する民間活用の可能性について、民間事業者と対話を行い、市場性の把握、活用アイデアの収集、参入しやすい公募条件等の設定のため、サウンディング調査の実施についても検討

横山、南横山小学校、榎尾中学校の施設概要

	榎尾中学校	横山小学校	南横山小学校
敷地面積	17, 781m ²	13, 278m ²	3, 720m ²
延床面積	4, 517m ²	4, 642m ²	2, 022m ²
建築年数	53年	44年	46年
耐震補強	実施済み	実施済み	実施済み
用途地域	市街化調整区域	市街化調整区域	市街化調整区域

学校跡地活用の方向性について

(仮に小中学校が用途廃止され、民間活用する場合)

	榎尾中学校	横山小学校	南横山小学校
戸建住宅	○	○	×
福祉関連施設	○	○	○
コンビニ ガソリンスタンド ドライブインレストラン	△	×	○
小売、サービス業 ※一定条件の制約あり	○	○	×
地区計画による開発 の可能性	△	×	×

小中一貫校を建設する場合の学校の利活用について

・横山小学校、榎尾中学校

小中一貫校用地の候補地のひとつ。(全く未定)

どちらか(もしくは両者)については、
校舎、体育館などの除却等を検討し、

そのうえで、
民間活力の検討や地域広場機能などの整理必要

小中一貫校を建設する場合の学校の利活用について

- ・南横山小学校

小中一貫校用地としての活用は困難。

教育資源としての需要がある。

コミュニティの拠点としての役割が求められる。

民間活用という方法も選択肢としつつ、
現在の校舎、体育館等の利活用を
検討していきたい。

※本資料については、跡地活用のイメージを
お示したものであり、個別具体の施設の
利活用にあたっては関係法令等の適合を
踏まえた上で進めていくことになります。

想定スケジュール 4月以降の予定について

想定スケジュール 4月以降の予定について

- 現在、地域への情報発信を行いつつ、
今回示した、今後の在り方について考えられる選択肢を
整理し、どの内容が望ましいか検討中。
- 市として望ましい形が整理できれば、何らかの形で
地域にお示ししたい。

想定スケジュール 4月以降の予定について

意見交換会の継続や地域説明会の実施など以下のパターンが想定されます

※配慮事項：年度替わりに伴う、各組織等のメンバー入れ替えについて

A：意見交換会の継続

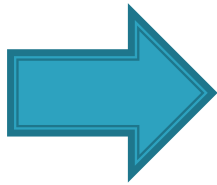
B：合同での意見交換会

C：地域説明会の実施

4月以降の予定について

A : 意見交換会の継続

- ・ これまでの情報提供内容について確認・掘り下げ
- ・ 追加の情報提供



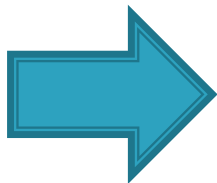
B: 合同での意見交換会実施

C: 地域説明会の実施

4月以降の予定について

B：合同での意見交換会

- ・ 各校区での意見の共有
- ・ 参加者同士による意見交換
- ・ 今後について協議

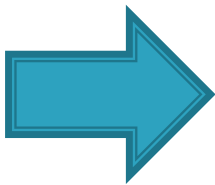


C：地域説明会の実施

4月以降の予定について

C : 地域説明会の実施

- ・ 経過説明
- ・ 市の見解説明
- ・ 意見集約



アンケートや適正就学対策審議会
への諮問を検討

4月以降の予定について

○4月以降の予定案については、速やかに整理を行い、周知できるよう取組みます。

○予定が確定した後の周知の方法については、新役員の方などにも相談しながら準備したいと考えています。

質疑・意見交換

学校適正配置 榎尾中学校区

第3回意見交換会

～榎尾中学校区今後の教育環境について～

主な意見など

意思決定について

✿ 小中一貫校とすることは決定事項となっているのか？

✿ 建設場所は榎尾中と決まっているのか？

(市より)

- ・小中一貫校が有効な手段の一つと考えていますが、市で一方的に決めるのではなく、地域の意見をいただきながら最終決定をしたいと考えています。
- ・現時点では小中一貫校とすることや建設場所も未定です。

児童生徒数の確保について

✿ 特認ありの小中一貫校が自然な流れと考えるが特認の人数確保が課題

✿ 国分町を就学区域に加えるなど区域の見直しは考えられないのか？

✿ 特認の通学費負担を軽減すれば児童生徒は集まると思う

✿ 設備面の充実が特色とならない。英語やプログラミング教育など、教育内容の魅力・充実がないと特認として通学させようと思わない。

(市より)

- ・校区は学校のための校区だけでなく、コミュニティの単位にもなっています。校区の再編は、慎重に検討が必要です。
- ・特認の魅力づくりは、様々な内容を検討しています。

小中一貫校を設置するのであれば

- ✿ 横山高校がなくなった時、バスの本数が減るなど住みにくさが進んだように感じた。地域づくりを含めて考えてほしい。
- ✿ 子どもを育てる時には、地域に戻って子育てしたいと思えるような環境をつくってほしい。
- ✿ 小中一貫校ができるまでの間に特認が減少してもいけない。その間も人数が確保できるような取組みや募集に際しての説明の検討が重要。

(市より)

- ・単なる学校建設ではなく、教育委員会と他部局も連携し、地域づくりを意識していきたい。
- ・魅力ある学校づくりが、地域の魅力向上、人口流出の抑制につながることも意識していきたい。